死刑執行人もまた死す（1943）

HANGMEN ALSO DIE!

メディア　映画
ジャンル　ドラマ　サスペンス
製作国　アメリカ
色彩　B&W
時間　120分
初公開日　1987/12/19
公開情報　ケイブルホーグ
リバイバル　1999/09［ケイブルホーグ］

【解説】

　ラングの招聘によってアメリカに赴いた劇作家のブレヒトが彼と共同でシノプシスを手がけた、反ナチ映画の傑作。実際の脚本は、当時ブレヒトと同じくコミュニストだった「汚れた顔の天使」のＪ・ウェクスリーが協力したが、これが著作権の訴訟にまで発展する諍いを生んだ。ブレヒトは当然のごとく自己の主張を前面に出した脚本にしようとしたが、それを弱めることをラングが望み、ウェクスリーが問題部分のカットと潤色を施したためである。いずれにせよ、ナチ高官ハイドリッヒ（“死刑執行人”の異名をとった）の暗殺の事実から発想された素晴らしい脚本で、特に思想犯として検挙される、ヒロイン＝マーシャ（Ａ・リー）の父＝ノヴォトニー教授（Ｗ・ブレナン好演）と、その家庭内の描写はブレヒトならではの真に迫ったものだ。所は独軍占領下のプラハ。暗殺犯であるフランツ医師（Ｂ・ドンレヴィ）は追跡の包囲網の中で、マーシャの機転によって危機を救われ、そのまま彼女の家に匿われる。ゲシュタポは犯人が捕まるまで、市民の無差別殺害を宣言。マーシャの父も連行される。父を救うため、フランツに自首を請うマーシャだが、彼はレジスタンス活動の意義を説き、取り合わない。やがて、彼の身にも危険が迫るが、マーシャを始めとする市民たちの偽証で、ナチ側のスパイだったチャカ（Ｇ・ロックハート）が暗殺犯に仕立てあげられる……。市民の群像劇でナチ批判をするなど、実際、ブレヒト的だが、ドブネズミのように姑息な男を英雄として死なせるラストにも彼流のきつい皮肉が効いており、ナチ将校の恐ろしさも、所作など細部の表現で非常に具体的に捉えられており見事だ。そして、それをサスペンスフルに運んでいくラングの演出の的確さはいうまでもない。

【クレジット】

監督	フリッツ・ラング	Fritz Lang
製作総指揮	アーノルド・プレスバーガー	Arnold Pressburger
原案	ベルトルト・ブレヒト	Bertolt Brecht
	フリッツ・ラング	Fritz Lang
	ジョン・ウェクスリー	John Wexley
脚本	ベルトルト・ブレヒト	Bertolt Brecht
	フリッツ・ラング	Fritz Lang
	ジョン・ウェクスリー	John Wexley
撮影	ジェームズ・ウォン・ハウ	James Wong Howe
音楽	ハンス・アイスラー	Hanns Eisler
出演	ブライアン・ドンレヴィ	Brian Donlevy
	ウォルター・ブレナン	Walter Brennan
	アンナ・リー	Anna Lee
	デニス・オキーフ	Dennis O'Keefe

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

ジーン・ロックハート	Gene Lockhart
ビリー・ロイ	
アレクサンダー・グラナック	Alexander Granach
ウィリアム・ファーナム	William Farnum

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.